



2021年9月期 決算短信〔日本基準〕（非連結）

2021年11月12日

上場会社名 株式会社ピー・ビーシステムズ 上場取引所 福
 コード番号 4447 URL http://www.pbsystems.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 富田 和久
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 彌永 玲子 TEL 092-481-5669 (代表)
 定時株主総会開催予定日 2021年12月24日 配当支払開始予定日 —
 有価証券報告書提出予定日 2021年12月27日
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年9月期の業績 (2020年10月1日～2021年9月30日)

(1) 経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年9月期	2,165	△5.1	230	3.6	230	5.3	164	15.2
2020年9月期	2,281	28.3	222	44.4	219	72.6	143	6.0

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2021年9月期	28.03	25.79	24.9	17.3	10.7
2020年9月期	25.74	22.42	30.0	20.7	9.8

(参考) 持分法投資損益 2021年9月期 ー百万円 2020年9月期 ー百万円

(注) 当社は、2020年1月1日付で普通株式1株につき2株、2020年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2020年9月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年9月期	1,567	731	46.7	119.93
2020年9月期	1,098	591	53.9	100.53

(参考) 自己資本 2021年9月期 731百万円 2020年9月期 591百万円

(注) 当社は、2020年1月1日付で普通株式1株につき2株、2020年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2020年9月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産を算定しております。

(3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2021年9月期	232	△14	△80	793
2020年9月期	100	△2	65	656

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産 配当率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2020年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0	0.0	0.0
2021年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0	0.0	0.0
2022年9月期 (予想)	—	0.00	—	0.00	0.00		0.0	

3. 2022年9月期の業績予想 (2021年10月1日～2022年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,500	—	266	—	252	—	176	—	29.94

(注) 2022年9月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、上記の業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっており、対前期増減率は記載していません。

※ 注記事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(2) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

2021年9月期	6,152,800株	2020年9月期	5,888,800株
2021年9月期	50,000株	2020年9月期	—株
2021年9月期	5,878,799株	2020年9月期	5,559,814株

(注) 当社は、2020年1月1日付で普通株式1株につき2株、2020年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。株式数は、2020年9月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	2
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 財務諸表及び主な注記	5
(1) 貸借対照表	5
(2) 損益計算書	7
(3) 株主資本等変動計算書	10
(4) キャッシュ・フロー計算書	11
(5) 財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(追加情報)	12
(持分法損益等)	12
(セグメント情報等)	13
(1株当たり情報)	16
(重要な後発事象)	16

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当事業年度(2020年10月1日～2021年9月30日)におけるわが国経済は、緊急事態宣言の断続的な発令、まん延防止等重点措置の実施など、新型コロナウイルス感染症の影響により経済活動が制限される厳しい状況が続きました。夏場以降のワクチン接種の進行など各種政策の効果により経済活動の持ち直しが期待されますが、今後も感染拡大の影響による下振れリスクに十分注意していく必要があります。

当社の属する情報通信業界は、世界的な半導体供給不足によるハードウェア納期の長期化が懸念されるものの、国策として推進される企業のDX(デジタルトランスフォーメーション)や、新型コロナウイルス感染症の影響により延期となっていた旧式システム刷新(2025年の崖対策)の再開、相次ぐサイバー攻撃やシステム障害への耐性を高めるレジリエンス対策に加え、ディセント・ワーク(多様な働き方)実現に向けたテレワーク環境整備などSDGs対応需要も背景に、企業のIT投資姿勢は積極化しています。

このような事業環境の中、当社は東京営業部を起点とした関東圏の営業強化、レジリエンスソリューション販売の活発化、SaaS事業者のクラウド基盤構築需要対応などの営業活動を推進しました。

その結果、当事業年度における売上高は2,165,368千円(前事業年度比5.1%減)、営業利益は230,780千円(前事業年度比3.6%増)、経常利益は230,709千円(前事業年度比5.3%増)、当期純利益は164,808千円(前事業年度比15.2%増)となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりです。

(セキュアクラウドシステム事業)

2020年10月に設置した東京営業部の立ち上がりにより、関東圏の大手SaaS事業者向けクラウド基盤関連の販売拡大ペースが加速したことに加え、利益面ではレジリエンスソリューション販売やハイパーコンバインドインフラ構築などの高付加価値案件が貢献しました。一方で、半導体供給不足によるハードウェア納期長期化や主要顧客の設備投資先送りの影響が生じた結果、セキュアクラウドシステム事業の売上高は、2,151,966千円(前事業年度比4.0%減)と伸び悩みましたが、営業利益は466,841千円(前事業年度比0.6%増)となりセグメント別の過去最高を更新しました。

(エモーショナルシステム事業)

防災・産業分野の開拓や、地方創生などの公共入札案件の受注活動に取り組みましたが、主力製品である4D0Hの当事業年度中の受注には至らず、既存施設の4D0Hメンテナンスなど、小型案件の積上げとなった結果、エモーショナルシステム事業の売上高は、13,402千円(前事業年度比66.5%減)、営業損失は29,693千円(前事業年度は営業損失31,863千円)となりました。

なお、全社営業利益は、各セグメントの営業損益の合計から、報告セグメントに分配していない全社費用206,366千円を差し引いた数値となっています。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産)

当事業年度末の資産の部は、前事業年度末に比べて469,617千円増加し、1,567,687千円となりました。これは主に、売掛金の増加(前事業年度末に比べて352,639千円の増加)、現金及び預金の増加(前事業年度末に比べて130,818千円の増加)、受取手形の減少(前事業年度末に比べて22,651千円の減少)、商品及び製品の減少(前事業年度末に比べて10,543千円の減少)、ソフトウェアの増加(前事業年度末に比べて10,031千円の増加)等によるものであります。

(負債)

当事業年度末の負債の部は、前事業年度末に比べて329,711千円増加し、835,782千円となりました。これは主に、買掛金の増加(前事業年度末に比べて367,980千円の増加)、長期借入金の減少(前事業年度末に比べて56,028千円の減少)、前受金の増加(前事業年度末に比べて54,788千円の増加)、未払消費税等の減少(前事業年度末に比べて41,015千円の減少)、未払法人税等の増加(前事業年度末に比べて22,384千円の増加)によるものであります。

(純資産)

当事業年度末の純資産の部は、前事業年度末に比べて139,906千円増加し、731,905千円となりました。これは、当期純利益164,808千円を計上したことによる利益剰余金の増加、自己株式の取得による43,382千円の減少、新株発行による資本金及び資本剰余金の増加(前事業年度末に比べてそれぞれ9,240千円の増加)によるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当事業年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、営業活動による資金の増加が232,446千円、投資活動による資金の減少が14,923千円、財務活動による資金の減少が80,930千円であったことにより、前事業年度末に比べ137,293千円増加し、793,299千円となりました。

当事業年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により増加した資金は232,446千円(前事業年度は100,600千円の増加)となりました。これは主に、買掛金の増加367,980千円、売上債権の増加334,857千円、税引前当期純利益の計上222,297千円、前受金の増加54,287千円、未払消費税等の減少41,015千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により減少した資金は14,923千円(前事業年度は2,553千円の減少)となりました。これは、無形固定資産の取得による支出14,435千円、有形固定資産の取得による支出487千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により減少した資金は80,930千円(前事業年度は65,771千円の増加)となりました。これは、長期借入金の返済による支出56,028千円、自己株式の取得による支出43,382千円、株式の発行による収入18,480千円によるものであります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2018年9月期	2019年9月期	2020年9月期	2021年9月期
自己資本比率(%)	4.3	35.4	53.9	46.7
時価ベースの 自己資本比率(%)	—	212.9	1,072.0	259.0
キャッシュ・フロー対 有利子負債比率(年)	2.2	2.8	2.3	0.7
インタレスト・ カバレッジ・レシオ(倍)	15.9	10.7	36.9	149.7

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

(注1) 株式時価総額は発行済株式数をベースに計算しております。また、当社株式は、2019年9月12日に福岡証券取引所Q-Boardに上場したため、2018年9月期については時価が把握できないため、時価ベースの自己資本比率を記載しておりません。

(注2) キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しております。

(注3) 有利子負債は貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っているすべての負債を対象としております。

(4) 今後の見通し

わが国経済全般の見通しは、2021年10月15日付内閣府月例経済報告において「先行きについては、感染対策を徹底し、ワクチン接種を促進するなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、サプライチェーンを通じた影響による下振れリスクに十分注意する必要がある。また、国内外の感染症の動向や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある」という先行き予想が出されています。

当社の属する情報通信業界は、企業のデジタルトランスフォーメーションに向けた動きの拡大する中、2021年9月の日銀短観において、ソフトウェア投資額の計画値が全産業平均で前年度比14.3%増加しており、企業のIT投資は今後も増加が想定されます。

パンデミックや半導体供給不足、ランサムウェア問題など短期間に多様かつ大きな変化が間断なく発生する不確実性の常態化を経営課題と認識する企業が増加し、ビジネスのレジリエンスを高めるためにIT基盤を見直す動きが広がっています。

経済産業省が「2025年の崖」と表現して警告してきた「複雑化・ブラックボックス化した古い情報システムを放置すると、2025年以降、企業に甚大な経済損失を生じさせる可能性がある」という問題については、社会インフラのシステム障害が近年相次いだこともあって、適切なシステム刷新の必要性と緊急性が企業経営者に再認識されました。

公共分野においては、国策として2016年に総務省が「自治体情報システム強靱性向上モデル」を策定し、全国の地方自治体に情報システムとネットワークの強靱化の仕組みが導入されてから間もなく5年を迎えるため、仮想デスクトップなどの強靱化の仕組みをリプレースする「次期強靱化」の検討が全国の自治体で活発化しています。

情報システムのレジリエンス対策やデジタルトランスフォーメーション実現の前提となる基幹システムのクラウド化、企業にアプリケーションを提供するSaaS事業者のクラウド基盤構築は、一層重要性を増しています。

セキュアクラウドシステム事業はこのような環境変化を踏まえ「必須のレジリエンス」という事業コンセプトのもと、回復力と強靱化を意味する「レジリエンス」を企業、自治体に向けて発信し、「基幹システムのクラウド化」と並ぶ、セキュアクラウドシステム事業のもうひとつの柱として発展させていきます。

エモーショナルシステム事業は、営業損益において赤字を解消できなかったことを踏まえて、戦略的方向付けを見直し、組織変更を行い、固定費を抑制することで、全社収益に与える影響を好転させ、事業セグメントを継続します。

以上の結果、次期の見通しは、売上高2,500,000千円、営業利益266,000千円、経常利益252,000千円、当期純利益176,000千円を見込んでいます。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は連結財務諸表を作成していないため、国際会計基準に基づく財務諸表を作成するための体制整備の負担等を考慮し、日本基準に基づき財務諸表を作成しております。

3. 財務諸表及び主な注記

(1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年9月30日)	当事業年度 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	656,005	786,824
受取手形	22,651	—
電子記録債権	—	4,869
売掛金	348,861	701,500
商品及び製品	13,944	3,401
仕掛品	1,425	3,161
原材料及び貯蔵品	235	235
未収入金	460	660
前払費用	5,490	6,782
預け金	5	6,475
その他	43	—
流動資産合計	1,049,123	1,513,909
固定資産		
有形固定資産		
建物	946	946
減価償却累計額	△78	△141
建物(純額)	867	804
構築物	2,195	2,195
減価償却累計額	△1,759	△1,813
構築物(純額)	436	381
工具、器具及び備品	34,883	32,661
減価償却累計額	△30,164	△29,476
工具、器具及び備品(純額)	4,719	3,184
有形固定資産合計	6,023	4,370
無形固定資産		
ソフトウェア	5,286	15,317
ソフトウェア仮勘定	—	259
電話加入権	164	164
無形固定資産合計	5,451	15,741
投資その他の資産		
出資金	30	30
敷金	9,579	9,118
差入保証金	1,052	1,052
長期前払費用	630	454
繰延税金資産	26,179	23,009
投資その他の資産合計	37,472	33,665
固定資産合計	48,946	53,778
資産合計	1,098,070	1,567,687

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年9月30日)	当事業年度 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	78,350	446,331
1年内返済予定の長期借入金	56,028	56,028
未払金	37,328	20,458
未払費用	41,906	40,880
未払法人税等	23,431	45,815
未払消費税等	46,555	5,539
前受金	36,790	91,579
預り金	7,100	7,098
流動負債合計	327,491	713,732
固定負債		
長期借入金	173,937	117,909
長期前受金	4,642	4,141
固定負債合計	178,579	122,050
負債合計	506,070	835,782
純資産の部		
株主資本		
資本金	237,655	246,895
資本剰余金		
資本準備金	237,655	246,895
資本剰余金合計	237,655	246,895
利益剰余金		
利益準備金	165	165
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	116,523	281,331
利益剰余金合計	116,688	281,496
自己株式	—	△43,382
株主資本合計	591,999	731,905
純資産合計	591,999	731,905
負債純資産合計	1,098,070	1,567,687

(2) 損益計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	当事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)
売上高		
製商品売上高	1,577,573	1,584,179
サービス売上高	704,368	581,188
売上高合計	2,281,941	2,165,368
売上原価		
製商品売上原価	1,274,014	1,253,000
サービス売上原価	378,402	284,114
売上原価合計	1,652,416	1,537,115
売上総利益	629,525	628,252
販売費及び一般管理費	406,833	397,471
営業利益	222,691	230,780
営業外収益		
受取利息	30	19
為替差益	—	700
助成金収入	900	600
雑収入	723	291
営業外収益合計	1,654	1,611
営業外費用		
支払利息	2,537	1,376
保証料	186	176
為替差損	260	—
和解金	2,272	—
その他	—	129
営業外費用合計	5,257	1,682
経常利益	219,088	230,709
特別損失		
たな卸資産評価損	—	8,412
減損損失	31,265	—
固定資産除却損	—	0
特別損失合計	31,265	8,412
税引前当期純利益	187,823	222,297
法人税、住民税及び事業税	25,871	54,319
法人税等調整額	18,864	3,169
法人税等合計	44,735	57,488
当期純利益	143,087	164,808

製商品売上原価明細書

		前事業年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	当事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)
区分	注記 番号	金額(千円)	金額(千円)
I 期首製商品たな卸高		59,386	14,179
II 当期製商品仕入高		1,220,332	1,249,895
III 減価償却費		8,475	974
IV たな卸資産評価損		1,334	2,668
合計		1,289,528	1,267,718
V 期末製商品たな卸高		15,514	6,305
VI 他勘定振替高	※1	—	8,412
当期製商品売上原価		1,274,014	1,253,000

サービス売上原価明細書

		前事業年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)		当事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	
区分	注記 番号	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
I 労務費		180,929	47.4	195,990	61.0
II 外注費		175,820	46.1	102,392	31.9
III 経費	※2	24,897	6.5	22,799	7.1
当期総製造費用		381,647	100.0	321,183	100.0
期首サービス仕掛品 たな卸高		31,310		1,425	
他勘定振替高	※3	33,129		35,333	
期末サービス仕掛品 たな卸高		1,425		3,161	
当期サービス売上原価		378,402		284,114	

原価計算の方法

当社の原価計算は、原則として実際原価による個別原価計算であります。

(注)※1. 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

(単位：千円)

項目	前事業年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	当事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)
たな卸資産評価損－特別損失	—	8,412

※2. 主な内訳は次のとおりであります。

(単位：千円)

項目	前事業年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	当事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)
地代家賃	8,803	9,308
旅費交通費	6,065	5,012
水道光熱費	2,344	2,516
消耗品費	4,163	2,433

※3. 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

(単位：千円)

項目	前事業年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	当事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)
営業支援費	30,818	35,073
ソフトウェア	2,311	—
ソフトウェア仮勘定	—	259
合計	33,129	35,333

(3) 株主資本等変動計算書

前事業年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

(単位:千円)

	株主資本							純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			株主資本合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰 余金 繰越利益剰 余金	利益剰余金 合計		
当期首残高	194,220	194,220	194,220	165	△26,564	△26,399	362,040	362,040
当期変動額								
新株の発行	43,435	43,435	43,435				86,870	86,870
当期純利益					143,087	143,087	143,087	143,087
当期変動額合計	43,435	43,435	43,435	—	143,087	143,087	229,958	229,958
当期末残高	237,655	237,655	237,655	165	116,523	116,688	591,999	591,999

当事業年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

(単位:千円)

	株主資本							純資産合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式		株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰 余金 繰越利益剰 余金	利益剰余金 合計			
当期首残高	237,655	237,655	237,655	165	116,523	116,688	—	591,999	591,999
当期変動額									
新株の発行	9,240	9,240	9,240					18,480	18,480
当期純利益					164,808	164,808		164,808	164,808
自己株式の取得							△43,382	△43,382	△43,382
当期変動額合計	9,240	9,240	9,240	—	164,808	164,808	△43,382	139,906	139,906
当期末残高	246,895	246,895	246,895	165	281,331	281,496	△43,382	731,905	731,905

(4) キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	当事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	187,823	222,297
減価償却費	13,922	6,285
減損損失	31,265	—
固定資産除却損	—	0
受取利息	△30	△19
支払利息	2,537	1,376
保証料	186	176
為替差損益 (△は益)	260	△700
売上債権の増減額 (△は増加)	△44,289	△334,857
たな卸資産の増減額 (△は増加)	75,091	8,808
前渡金の増減額 (△は増加)	177	—
未収入金の増減額 (△は増加)	620	△199
前払費用の増減額 (△は増加)	△1,169	△1,320
その他の資産の増減額 (△は増加)	△45	509
差入保証金の増減額 (△は増加)	△33	—
買掛金の増減額 (△は減少)	△147,845	367,980
未払金の増減額 (△は減少)	△18,221	△16,870
未払費用の増減額 (△は減少)	28	△1,025
預り金の増減額 (△は減少)	1,042	△2
前受金の増減額 (△は減少)	△10,528	54,287
未払法人税等 (外形標準課税) の増減額 (△は減少)	2,011	△452
未払消費税等の増減額 (△は減少)	35,853	△41,015
小計	128,656	265,257
利息の受取額	30	19
利息の支払額	△2,483	△1,347
保証料の支払額	△872	—
法人税等の支払額	△24,731	△31,482
営業活動によるキャッシュ・フロー	100,600	232,446
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	5,353	—
定期預金の預入による支出	△450	—
有形固定資産の取得による支出	△3,810	△487
無形固定資産の取得による支出	△3,646	△14,435
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,553	△14,923
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	180,000	—
長期借入金の返済による支出	△201,099	△56,028
株式の発行による収入	86,870	18,480
自己株式の取得による支出	—	△43,382
財務活動によるキャッシュ・フロー	65,771	△80,930
現金及び現金同等物に係る換算差額	△260	700
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	163,558	137,293
現金及び現金同等物の期首残高	492,446	656,005
現金及び現金同等物の期末残高	656,005	793,299

(5) 財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症について、感染拡大の収束時期を見通すのは困難な状況であります。そのため、当社では、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響は2022年9月期の一定期間にわたり続くものと仮定し、固定資産の減損、繰延税金資産の回収可能性などの会計上の見積りを行っております。

(持分法損益等)

当社は関連会社を有していないため、該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、本社に製商品・サービス別の事業部門を置き、各事業部門は、取り扱う製商品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従いまして当社は、事業部門を基礎とした製商品・サービス別のセグメントから構成されており、「セキュアクラウドシステム事業」及び「エモーショナルシステム事業」の2つを報告セグメントとしております。

セキュアクラウドシステム事業は、企業システムのプライベートクラウド化や強固なセキュリティ環境を整備するインフラ構築を中心とした事業であり、その他に、企業、団体向けの販売管理や生産管理といったシステム開発、仮想化環境に特化した自社プロダクト販売を行っております。

エモーショナルシステム事業は、テーマパーク等のレジャー産業、博物館などの文化施設、防災施設、VR(仮想現実感)を用いた各種シミュレーションを行う事業会社を中心とした顧客向けに、空間を仮想化するための特殊な映像技術を用いた、4DOHというVRシアターの技術開発及び設備製造販売を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「重要な会計方針」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前事業年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	財務諸表計上額
	セキュアクラウド システム事業	エモーショナル システム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,241,940	40,001	2,281,941	—	2,281,941
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	—	—	—	—
計	2,241,940	40,001	2,281,941	—	2,281,941
セグメント利益又は 損失(△)	464,163	△31,863	432,300	△209,608	222,691

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△209,608千円は、報告セグメントに分配していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、財務諸表の営業利益と調整を行っております。

3. セグメント資産、負債その他の項目の金額は、事業セグメントに配分していないため、開示しておりません。

当事業年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	財務諸表計上額
	セキュアクラウド システム事業	エモーショナル システム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,151,966	13,402	2,165,368	—	2,165,368
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	—	—	—	—
計	2,151,966	13,402	2,165,368	—	2,165,368
セグメント利益又は 損失(△)	466,841	△29,693	437,147	△206,366	230,780

- (注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△206,366千円は、報告セグメントに分配していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失(△)は、財務諸表の営業利益と調整を行っております。
3. セグメント資産、負債その他の項目の金額は、事業セグメントに配分していないため、開示しておりません。

【関連情報】

前事業年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

1. 製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位:千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
エヌ・デーソフトウェア株式会社	393,533	セキュアクラウドシステム事業
天方産業株式会社	232,606	セキュアクラウドシステム事業

当事業年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

1. 製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位:千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
エヌ・デーソフトウェア株式会社	825,382	セキュアクラウドシステム事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前事業年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	財務諸表計上額
	セキュアクラウドシステム事業	エモーショナルシステム事業	計		
減損損失	—	31,265	31,265	—	31,265

当事業年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	当事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)
1株当たり純資産額	100.53円	119.93円
1株当たり当期純利益金額	25.74円	28.03円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	22.42円	25.79円

(注) 1. 当社は、2020年1月1日付で普通株式1株につき2株、2020年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2020年9月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。

2. 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	当事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益金額(千円)	143,087	164,808
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益金額(千円)	143,087	164,808
普通株式の期中平均株式数(株)	5,559,814	5,878,799
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	823,143	510,988
(うち新株予約権(株))	(823,143)	(510,988)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。